

視 察 報 告

資料1

視察先一覧

NO.	視察日	視察校	所在地	設置者	選定理由	スライド
1	7/26	栃木県立宇都宮工業高等学校	栃木県／宇都宮市	公立	専門高校	2
2	7/26	川口市立高等学校	埼玉県／川口市	公立	アクティブラーニング	10
3	8/5	島根県立隠岐島前高校	島根県／海士町	公立	SGH(スーパーグローバルハイスクール指定校)、離島	18
4	8/23	横浜サイエンスフロンティア高等学校	神奈川県／横浜市	公立	SSH(スーパーサイエンスハイスクール指定校)	27
5	8/23	鶴見大学附属中学校・高等学校	神奈川県／横浜市	私立	教科教室型	36
6	8/26	聖光学院中学校高等学校	神奈川県／横浜市	私立	SSH	44
7	8/28	宮城県農業高等学校	宮城県／栗林市	公立	専門高校	55
8	8/28	宮城県迫桜高等学校	宮城県／名取市	公立	総合学科の高校	64
9	9/19	立命館中学校・高等学校	京都府／長岡京市	私立	アクティブラーニング	※
10	9/20	追手門学院高等学校	大阪府／茨木市	私立	アクティブラーニング	※
11	9/20	京都市立堀川高等学校	京都府／京都市	公立	SSH、SGH、複合化	※

※ NO.9, 10, 11の学校については、次回部会にて報告予定。

1. 栃木県立宇都宮工業高等学校

全日制課程 (4系):機械システム・電気情報システム・建築デザイン・環境建設システム 定時制課程:工業技術科

【所在地】 栃木県宇都宮市雀宮町52番地

【生徒数】 全日制:957 (機械 358 電気情報 239 建築 121 環境建設 239) 定時制:88

【出身中学別生徒数】

<全日制>

宇都宮市 454

その他県内 497

国県私立ほか 6

<定時制>

宇都宮市 60

その他県内 28

その他 0

【進路】 (H31.3.31現在)

<全日制>

就職 222

進学 98

<定時制>

就職 15

進学 7

その他 3

【職員数】

<全日制>

校長	教頭	事務長	主幹教諭	教諭	講師	非常勤講師	実習教諭	実習教員	養護教諭	養護助教諭	事務職員	公仕	医師薬剤師	計
1	2	1	3	58	5	14	7	12	1	1	9	4	6	124

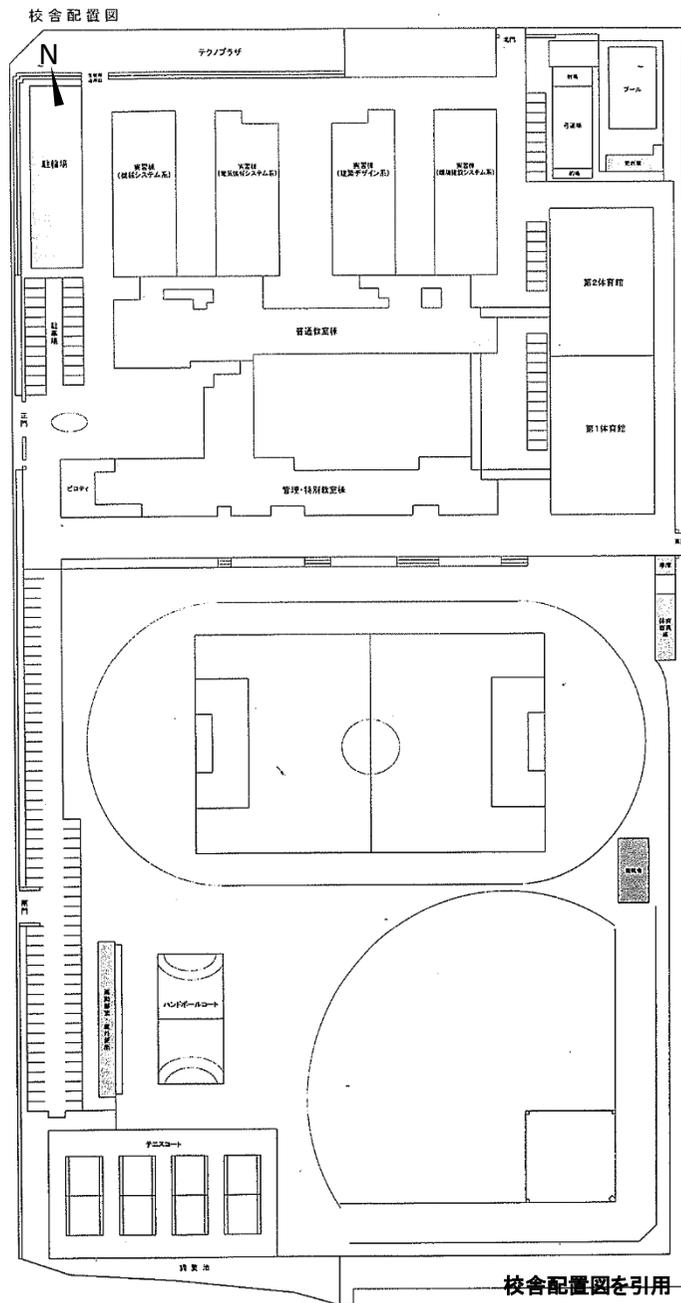
<定時制>

教頭	教諭	講師	非常勤講師	実習教諭	実習教員	養護教諭	事務職員	学校栄養士	公仕	医師・薬剤師	計
1	14	4	10	1	2	1	2	1	1	6	43

【沿革】

大正12年創立。平成23年新たなタイプの工業高校(科学技術高校)として開校。市内中心部から現在の敷地に移転。平成27年SPH(Super Professional High School)指定。平成31年「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」指定。

【校地平面図】



【特色】

・栃木県産業の将来を担う技術力に対応できる人材の育成

- ① 1年次は「系」に、2年次から系の中で「学科(コース)」に分かれる。
- ② 学校設定科目「科学技術と産業」の設置
- ③ 地域企業、大学、県の研究機関などとの連携
- ④ 最先端の施設・設備の活用

・大学進学等への対応

2年次から進路希望に合わせて、進学類型または専門類型の選択授業を実施。少人数・補習授業等も実施し、個別の対応を行っている。

・SPH事業(H27～29)

科学的でグローバルな視点を持った技術者の育成として、地域の企業や大学との連携を積極的に実施。

・地域との協働による高等学校教育改革推進事業(H31～)

デザイン・システム思考を備え、栃木県に根ざした共創型実践技術者育成のため、産学官の連携事業を実施。

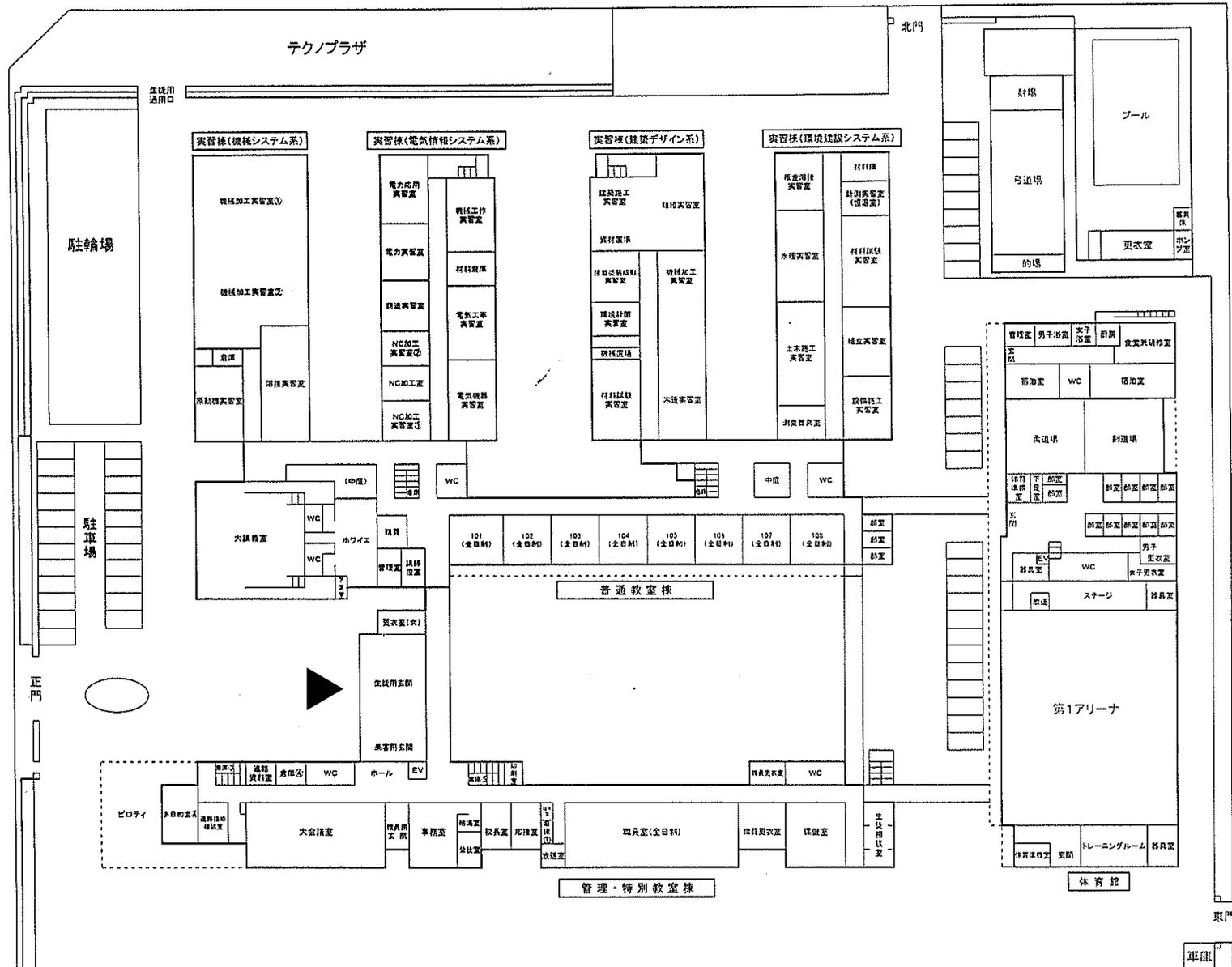


学校HPより

正門

【平面図】

校舎配置図(1階)



校舎配置図を引用

【施設の状況】

(校舎)

- 学校の移転に伴い、最寄り駅である雀宮駅前の整備が行われ市立図書館とともに文教ゾーンの立地となっている。全体的に新しくゆとりを感じる広さ、配置計画である。(平成23年9月1日新校舎に移転)
- 廊下のバリアフリー化のため、ロッカーを教室内に設置している。
- 工業高校らしく、配電盤やPSをスケルトンにして生きた教材としている。
- 校内はバリアフリー化されているが、EVは一基のみである。
- インタラクティブコート(芝生のある中庭)は、生徒の憩いや催し物の場所として利用されている。



配電盤の扉にガラスを入れて、中が見えるように工夫されている。

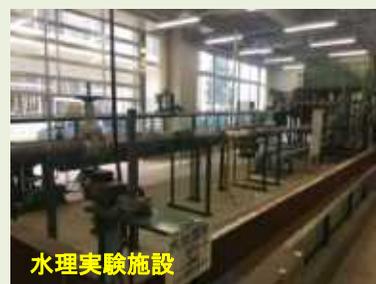
点字ブロックやスロープなどバリアフリー化された校内。



【施設の状況】

(校舎)

- 系ごとの実習棟に最先端の機器や実験設備、測量機器などを設置し、企業と同レベルの環境で実践的な実習を行える。
- 今後、機器類の保守点検や更新に対応していく必要がある。



【施設の状況】

(校舎)

- 実習棟において市の団体などと協力しながら子供向けのイベントを行っている。
- 学校設定科目「科学技術と産業」は、1学年320名を対象に大講義室で実施している。
- 図書室は吹き抜けで、内装に木を使用するなど、気持ちの良い空間となるよう工夫されている。
- 県内の工業関係高校の生徒がものづくりコンテスト大会前などに練習できるよう実習棟の機器使用を許可している。
- 避難所として指定はされていないが、防災拠点としても使用できるよう、警察と連携協定を結んでいる。帰宅困難者の受入れも可能。





▲エントランス



▲普通教室



▲普通教室前廊下



▲大講義室



▲図書室



▲インタラクティブコート



▲実習棟(機械システム系)



▲実習棟(建築システム系)



▲起震装置(建築システム系)



▲工作機械(機械システム系)



▲水理実験装置(環境建設システム系)



▲測量実験装置(環境建設システム系)



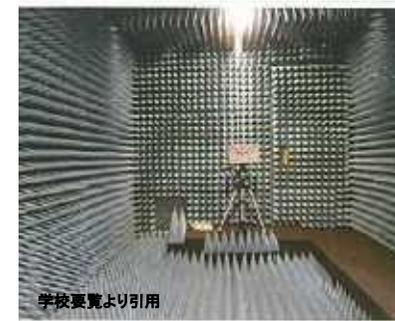
▲衛生設備の実習装置
(環境建設システム系)



▲中身の見える分電盤



▲木造実習(建築システム系)



▲電波暗室(電気情報システム系)

2. 川口市立高等学校

全日制課程 (12クラス): 普通科、普通科文理スポーツコース、理数科 定時制課程 (3クラス): 総合学科

【所在地】 埼玉県川口市上青木 3-1-40(第1校地) 川口市朝日5-9-18(第2校地)

【生徒数】 全日制:1490 定時制:198

【出身中学別生徒数】

<全日制>

川口市	982
その他県内	498
県外	10

<定時制>

川口市	162
その他	36

【進路】

(H30年度 旧3校卒業生進路状況)

<全日制>

進学	518
就職	27
その他	29

【職員数】

校長	副校長	事務長	中高一 貫準備 室長	教諭 (非常 勤)	養護 教諭	実習 教諭	実習 助手	CIR	ALT	進路 カウンセ ラー	スクー ルカウ ンセー ラー	教育 相談員	司書
1	3	1	1	109 (8)	2	1	5	7	1	2	2	2	4
ICT/AL 支援	事務 職員	校務員	嘱託 講師	合計									
5	11	6	15	186									

【沿革】

川口市立川口総合高等学校、川口市立県陽高等学校、川口市立川口高等学校の3校を統合し、平成30年4月に川口市立高等学校として開校。(川口総合高等学校の敷地に建設)

【校地平面図】



【特色】

・川口市の教育のリーディング校

・隣接するSKIPシティ(産業振興施設)と連携した施設整備

・多様な学習支援

独自の人材配置

少人数授業の実現、支援員(AL・進路指導・ICT・部活動など)の配置など

大学や民間専門機関との連携

放課後・休業中の学習支援

補講授業の実施、校内の各所に学習スペースを設置
(ラーニングcommons自習室・カフェテリア・commons
ペース・小教室)

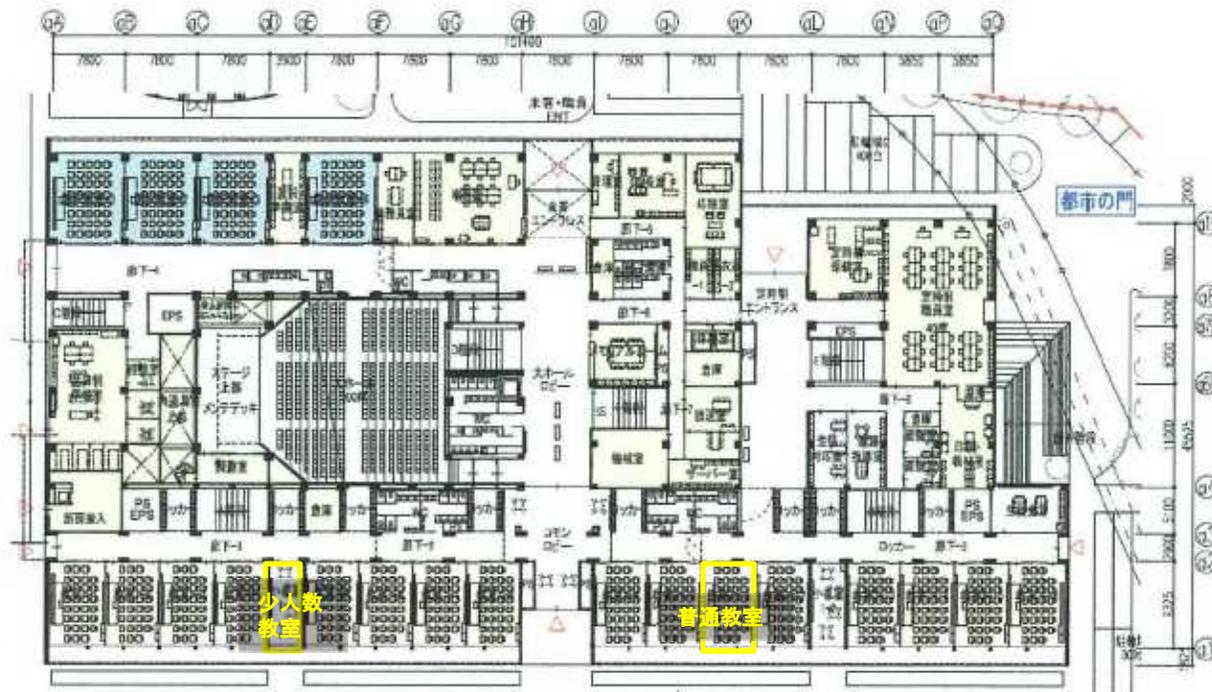
・ICTを活用した学び

ICT整備5か年計画の目標値を満たしている。

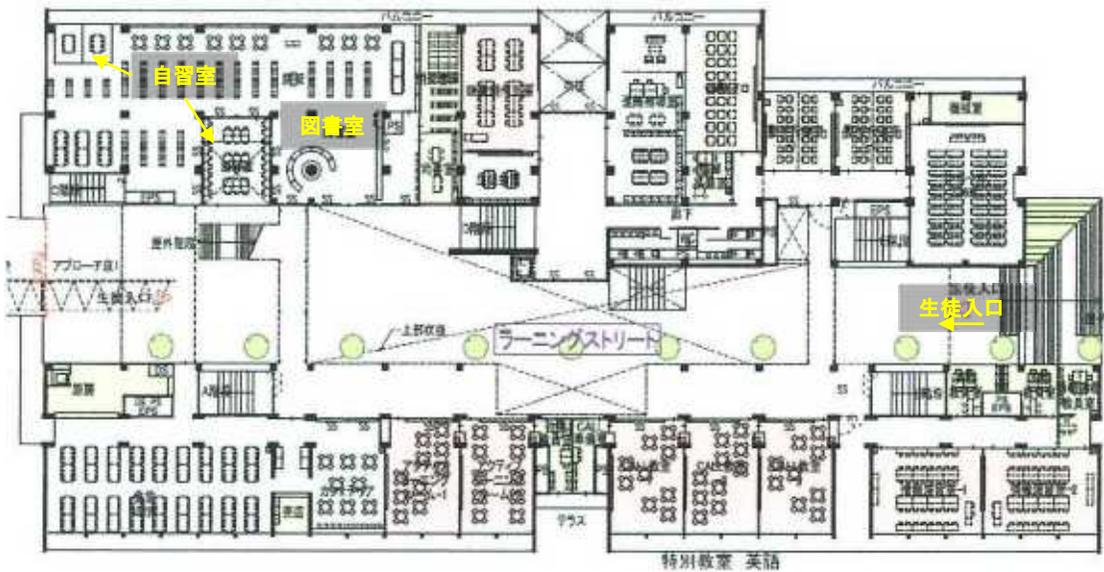
「アクティブ・ラーニングルーム」

空間UI技術を用いた「空間UIルーム」

【平面図】



1階平面図



2階平面図

学校説明資料より引用

【施設の状況】

(校舎)

- ・市立高等学校3校の統合校であることを踏まえ、計画・設計の段階から、各校の教職員へのヒアリングを重ね、設計に反映させている。
- ・敷地内を抜けるラーニングストリートと呼ばれる大通りを計画。大通りを挟む形で、教室棟と特別教室エリアが配置され、膜屋根がかけられている。
- ・地場の鋳物をサインなどにふんだんに使用している。
- ・共用部にゆとりを持たせ、ストリートファニチャーを設置するなど、遊びの空間を多く取り入れている。
- ・生徒数を踏まえ、1足制にしているため下足室がない。床はゴムシートが貼られ、安全性を確保している。
- ・ラーニングストリートや、そこに面した廊下は、半屋外空間のため、鳥や虫による被害や汚れが課題と感じる。



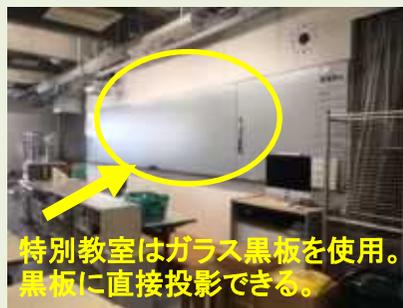
【施設の状況】

(校舎)

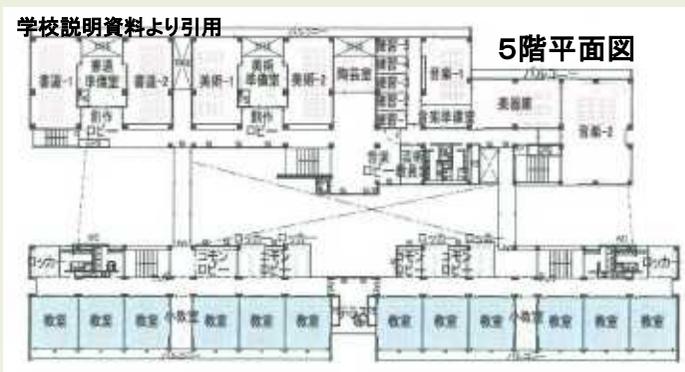
- ・普通教室エリアはICTに対応し、ロッカールームに隣接してコモンロビーと呼ばれる休憩スペースを設け、メリハリのある空間となっている。
- ・特別教室は、壁面をガラス張りとし、展示スペースを設けることでそれぞれの活動のショールーム的な空間になっている。特別教室の黒板は直接映写できるようガラス黒板を使用。
- ・特別教室の脇に専門教員用の小規模な準備室を設けている。
- ・少人数教室やプレゼンテーションルームなど、多様な学習方法に対応できる小空間を設けている。



普通教室



特別教室はガラス黒板を使用。
黒板に直接投影できる。



プレゼンテーションルーム



特別教室棟壁面



コモンロビー



ロッカールーム

【施設の状況】

(校舎)

- ・最先端のICT機器を活用できるアクティブラーニングルームや空間UIルームを整備。大学や企業と連携しながら、取組を実施している。
- ・校内各所に自習スペースを設けている。教職員との個別指導や相談場所として使用されるだけでなく、大学生のチューター(無料)や学習メンター(有料)を配置し、指導を受けられるようにしている。
- ・定時制専用のクラスルームを整備し、生徒の居場所を確保している。
- ・公立高校としては充実した食堂・カフェテリアが完備
- ・職員室の廊下側はガラス張りで開放感があり、声がかけやすい環境としている。





▲コモンロビー①



▲コモンロビー②



▲プレゼンテーション
ルーム



▲ラーニング commons



▲空間UIルーム



▲美術室



▲理科室



▲普通教室



▲特別教室の壁を
展示空間としている



▲家庭科室



▲食堂



▲大ホール



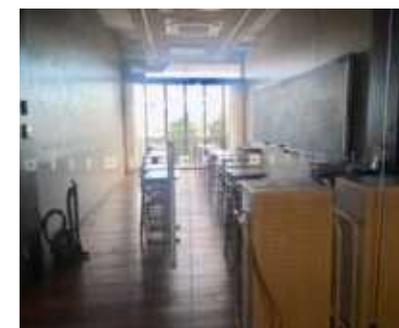
▲自習スペース①



▲自習スペース②



▲自習室



▲少人数教室



▲職員室内部



▲職員室
(ガラス張りの壁)



▲ラーニングストリート



▲鋳物のサイン



▲ロッカールーム

3. 島根県立隠岐島前高等学校

全日制課程(6クラス):普通科

【所在地】 島根県隠岐郡海士町1403番地 (中ノ島)

【生徒数】 普通科 156(R1.9.1)

【出身中学別生徒数】

島内 31

島外(西ノ島、知夫里島) 40

県内本土 13

県外 72

【進路】

(H30年度 卒業生進路状況)

進学 55 (85%)

就職 10 (15%)

【職員数】

校長	教頭	学校経営 補佐官	主幹 教諭	教諭	養護 教諭	講師	非常勤 講師	実習 助手	学校 司書	事務 長	主任	主任 主事	小計
1	1	2	2	14	1	11	4	1	1	1	1	1	41

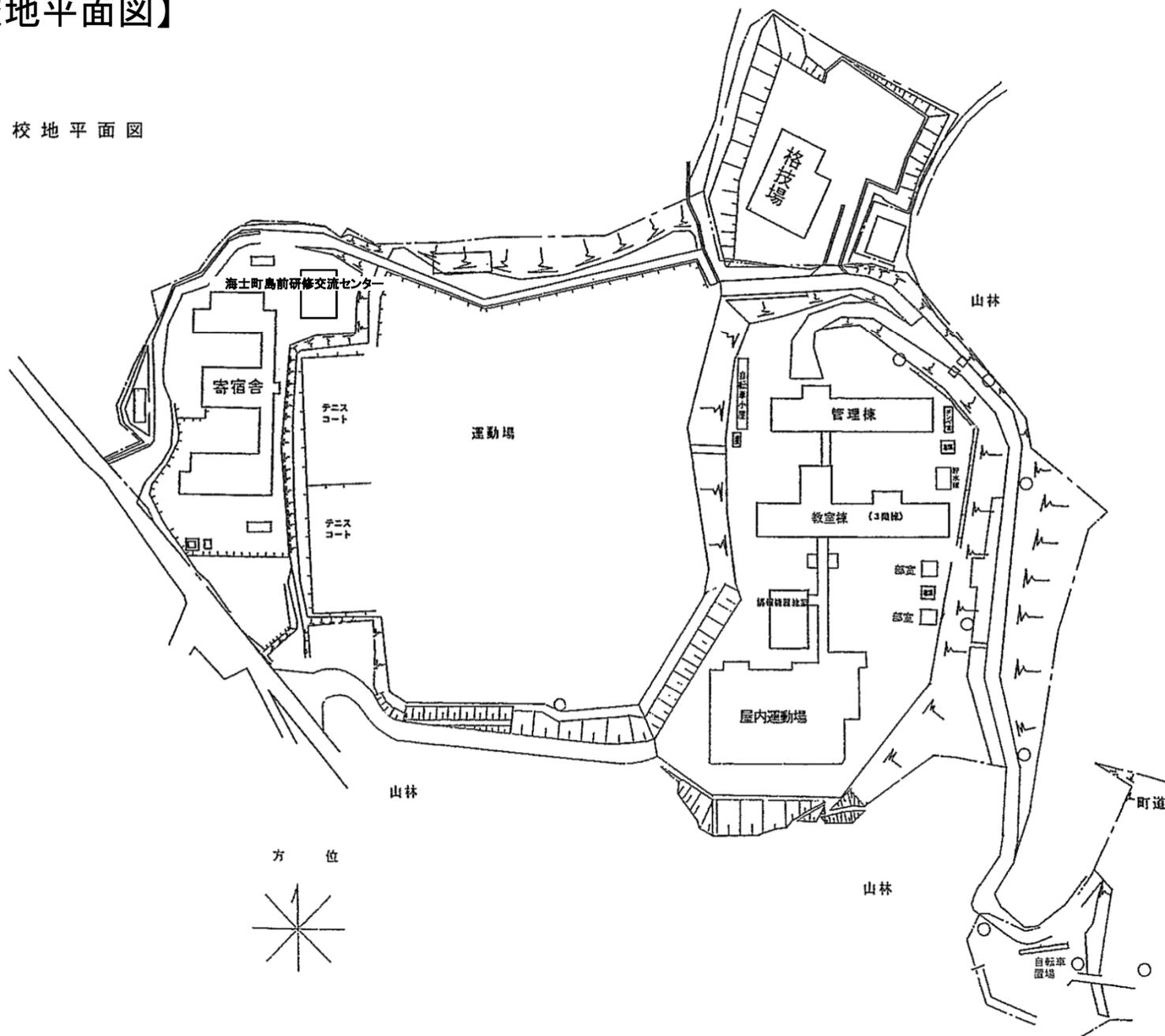
校医	歯科 医	薬剤 師	警備 員	炊事 員	小計	合計
1	1	1	1	9	13	54

【沿革】

昭和30年に島根県立隠岐高等学校島前分校定時制として開校、昭和33年全日制に切り替え。昭和40年に分離独立。昭和48年に現校舎が竣工、平成6年に寄宿舍(鏡浦寮)移転新築。平成26年に研修交流センター(三燈)新築。

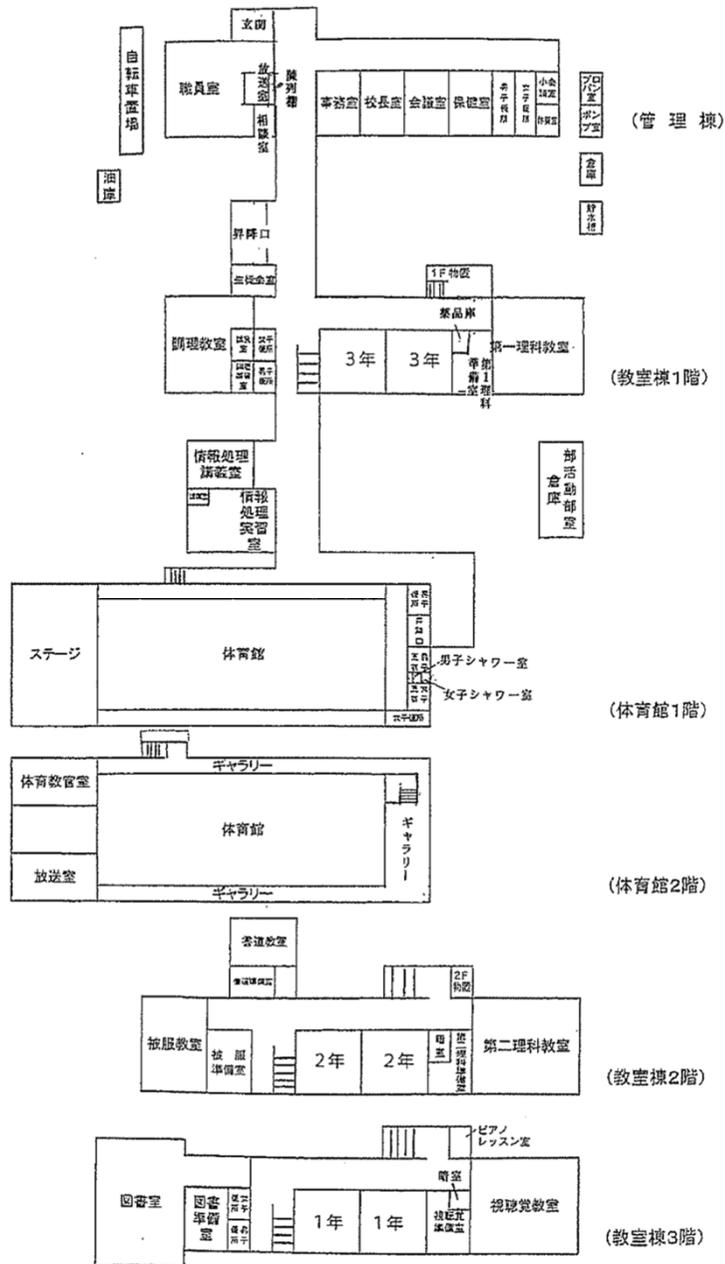
【校地平面図】

校地平面図



【平面図】

校舎平面図



【特色】

- ・全校生徒156人中80人が寄宿舎に居住
- ・地域に根差した教育の実践(総合的な学習の時間「夢探究」等として、島前地域の現状と課題の探究学習、学校設定教科・科目として「地域生活学、地域地球学」を設定。)
- ・キャリア教育の推進
(自己実現と地域・社会貢献を果たす夢の探究「夢探究」、商業、保育・福祉の実学的な専門科目、ブータン、ロシアへの短期研修や短期海外留学生受け入れ等)
- ・学内の約7割の生徒が通う公立塾との連携・協働
(教員と塾講師との情報共有)



校舎



寄宿舎(三樓)



寄宿舎(鏡浦寮)



公立塾

島根県立隠岐島前高校

【施設の状況】

(校舎)

- ・周囲は海と緑に囲まれており、いずれの室も風光明媚な環境。
- ・全ての普通教室に、電子黒板機能付き短焦点プロジェクター、可動式スクリーン、書画カメラ、無線LANが整備されている。また、タブレット端末を50台整備、数としては生徒1人につき1台には満たないが、[ICT環境整備に取り組んでいる](#)。
- ・[学校の近くにある学生寮では、調理室と飲食スペースが隣接しており、平日のランチタイムにも活用され、また、寮から学校への配食も行われている](#)。
- ・生徒や職員が[静養できる和室を設けている](#)。
- ・学校図書館は、生徒がくつろいで本を読むことができるソファーや椅子、また、海が見えるカフェ風の席の設置など、生徒が利用しやすい工夫がなされている。



電子黒板機能付き短焦点プロジェクター、可動式スクリーン、書画カメラを配置した普通教室



タブレット端末を職員室入口に収納、充電



落ち着ける和室の小部屋



緑と海が見える窓側席

大きな開口部のそばにソファを配置し、居心地のいい空間の工夫をした図書室

【施設の状況】

(校舎)

- ・廊下幅には余裕があり、明るく、開放的な空間構成。
- ・高台に建つ学校で、防災避難拠点となっており、避難所であることを示すサインが設置されている。
- ・昭和48年に建てられた鉄筋コンクリート造の校舎を改修しながら使用。
- ・各棟で分割され、教室棟も3層のため、廊下や階段といった移動空間が大きい。
- ・少人数授業を展開する場合に、一部で十分な機材が無い室を使用しなければならない、個別面談等を行う際の室が足りないなど、多様な教育シーンにあわせた運営のためには空間が不足しているという状況がみられる。
- ・教職員のロッカーは職員室近くの廊下にある、教職員は職員室内にある放送室を更衣室として活用もしている。
- ・3階建てであるが、2階部分にトイレがない。
- ・ロッカーが老朽化しており、サイズも現在の生徒の持ち物にあわなくなっている。



【施設の状況】

(寄宿舍)

けいほ

○県 鏡浦寮(収容定員:56名)平成6年築:女子47名が居住

さんとう

○町 三燈(収容定員:36名):平成26年築男子33名が居住

※いずれも令和元年度9月現在

- ・どちらの寄宿舍も居住スペース以外に自習できるスペースを設けている。
- ・三燈では、玄関前の階段スペースにより、2階にいても1階の出入りや気配が感じられる。
- ・町設立の研修交流センター(三燈)の設計には、地域の方々も活用できる交流スペースを設けるなど、地域の学校としての工夫がみられる。

三燈

鏡浦寮





▲学校玄関



▲学校正面



▲学校と寄宿舍を結ぶ道からの眺め



▲普通教室



▲普通教室に取り付けられたエアコン



▲図書室。図書室リラックスコーナー



▲屋内運動場



▲理科室



▲調理教室



▲面談会場として活用された理科準備室



▲保健室



▲休養室として活用された和室



▲階段室



▲職員室



▲洋式トイレ



▲男子トイレ



▲廊下



▲生徒の下足入れ



▲電子黒板機能付きスクリーンと書画カメラ



▲寮正面(三燈)



▲各室入り口(三燈)



▲階段ホールから見る玄関(三燈)



▲玄関ホールの多目的スペース(三燈)



▲自習コーナー①(三燈)



▲自習コーナー②(三燈)



▲台所(三燈)



▲洗面台とトイレ(三燈)



▲女子寮正面(鏡浦寮)



▲寮(左:女子寮、右:男子寮)



▲寮(鏡浦寮)



▲寮居室内②(鏡浦寮)



▲自習室(鏡浦寮)



▲自習室中(鏡浦寮)



▲舎監室(鏡浦寮)



▲食堂(鏡浦寮)

4. 横浜サイエンスフロンティア高等学校

全日制課程(高校18クラス):理数科

【所在地】 神奈川県横浜市鶴見区小野町6番地

【生徒数】 高校 707名 (男子523名 女子184名) (令和元年5月1日現在)

【出身中学別生徒数】

中高一貫教育校

(市内:約70%、市外:約30%)

【進路】 (平成31年3月卒業生)

ほぼ全員が進学

【職員数】

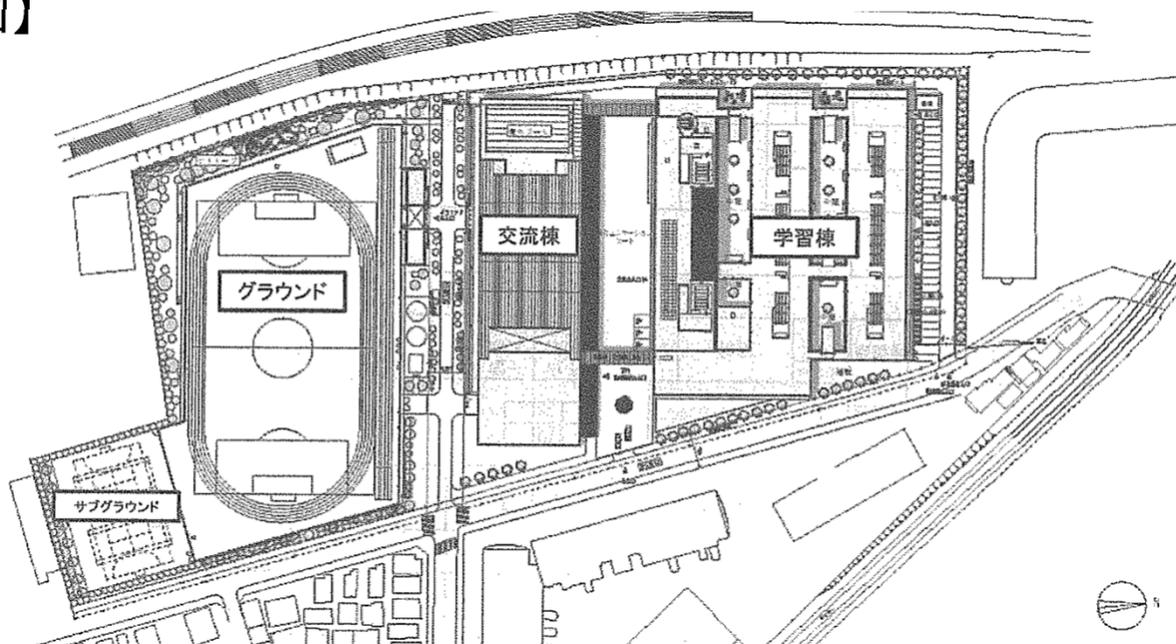
校長	副校長	教諭	養護教諭	非常勤講師	AET※	学校司書	事務長	事務職	嘱託	小計
1	2	75	2	7	2	1	1	3	2	96

※AET:Assistant English Teacher(英語指導助手)

【沿革】

平成12年に市立高等学校再編整備計画が策定され、16年に基本構想、17年に基本計画が策定。平成19年に着工、20年に竣工し、21年に開校。平成22年に文部科学省のSSHの指定を受け、27年に再指定を受ける。また、平成26年に文部科学省のSGHの指定を受ける。

【校地平面図】



【特色】

・サイエンスリテラシー

独自の科目である課題探究型授業「サイエンスリテラシー」を展開、1年次は、研究の基礎となる技術や知識を身に付け、2年次は、いずれかの分野に所属し、個人で設定したテーマについて、研究を行う。3年次はさらに研究を深め、学会やコンテストで成果を発表する。

・スーパーアドバイザー

第一線で活躍する科学者をスーパーアドバイザーとして迎え、特別講義等の開催により、生徒が直接「ほんもの体験」ができる機会を設けている。

・海外研修・国際交流プログラム

2年次に現地学生との交流や研究発表等を行うため、全員がマレーシアを訪問。研修中にはサイエンスリテラシーで進めている研究の成果の英語での発表を行う機会がある。

・地域との関わり

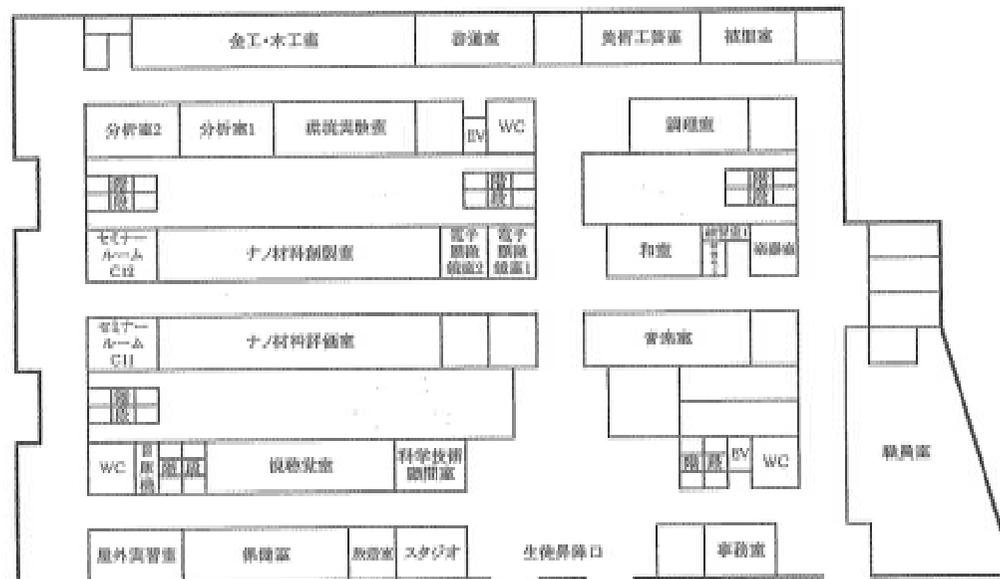
小中学生を招き、近隣企業の協力を得て行うサイエンス教室や学校に設置された天体望遠鏡を用いた天体観測会が行われている。



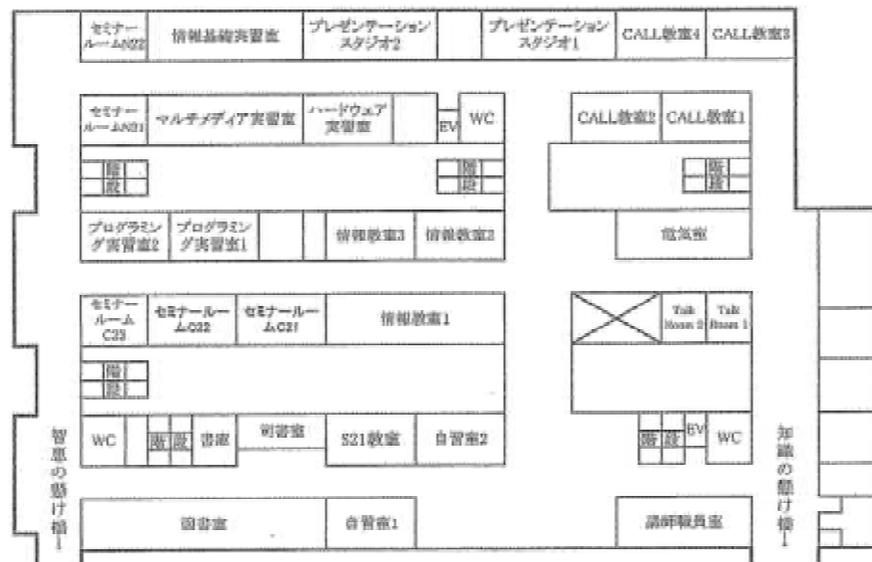
【平面図】

学習棟

1階



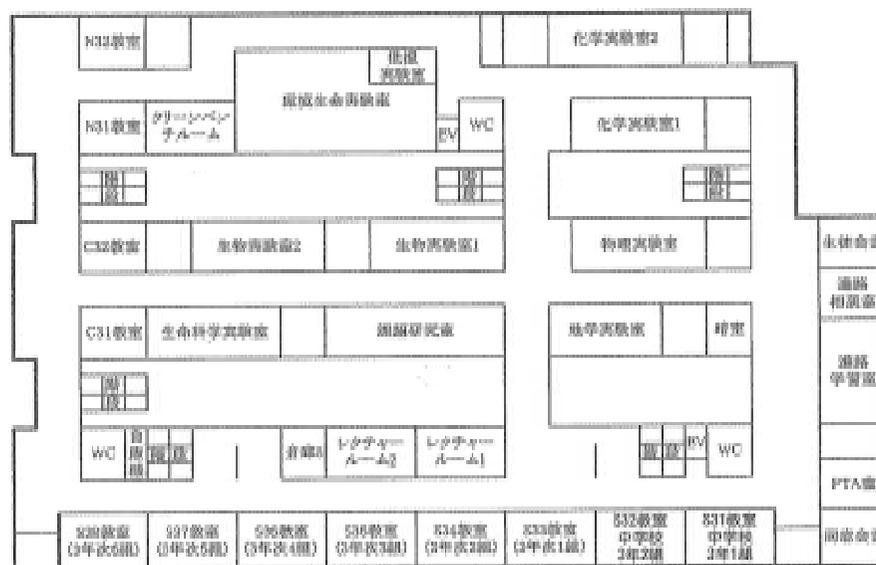
2階



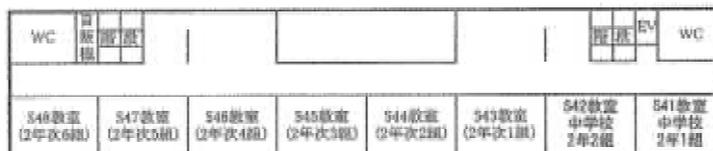
【平面図】

学習棟

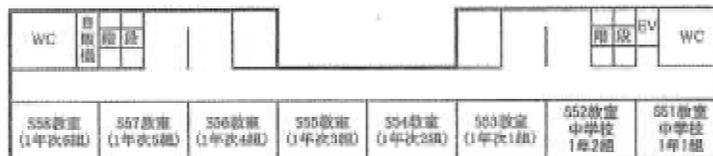
3階



4階



5階

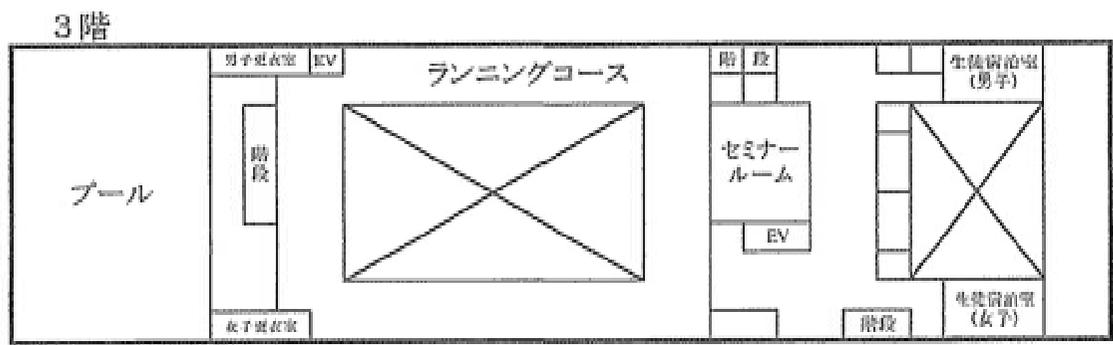
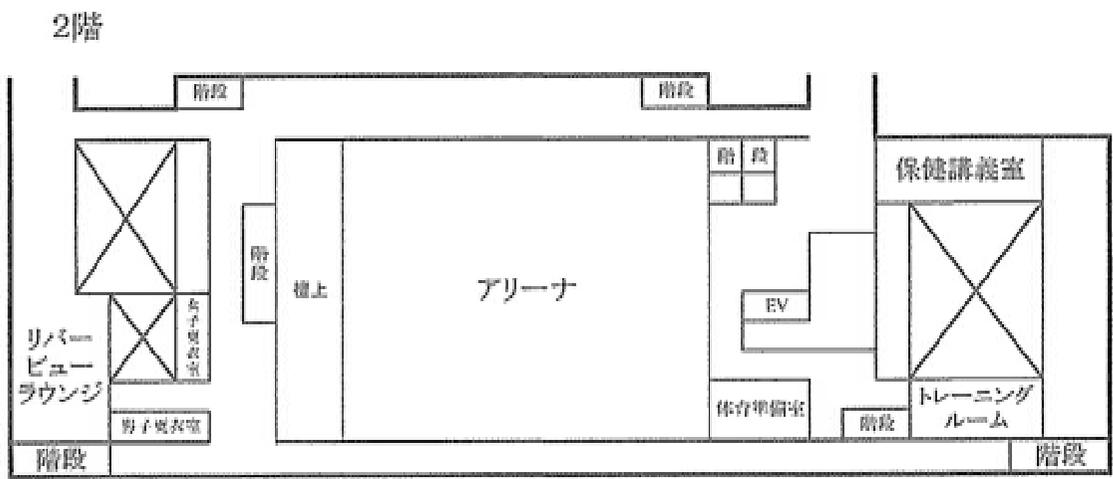


屋上



【平面図】

交流棟



【施設の状況】

(校舎)

- ・校舎はコンクリート打ち放しのすっきりとしたデザインを採用しており、普通教室や実験室のある学習棟とホールやカフェテリアのある交流棟をつなぐ橋が「智恵の懸け橋」と名付けられているなど、科学技術教育に特色のある当校の特徴が施設に活かされている。
- ・科学技術に関する専門性の高い施設・設備を充実させるとともに、グループ学習やディスカッション等を行うことにより、生徒に「主体的・対話的で深い学び」を促す学習環境が整備されるよう設計がなされている。
- ・イメージのつきやすいサインや曲がり角での案内板など、広い校内をわかりやすくする工夫をしている。
- ・先端科学技術各分野の研究機関や大学、企業の研究者等を科学技術顧問として委嘱し、学校運営への協力を得るとともに、協賛企業から実験機器等の提供を受けるなど、限られた予算の中で、教育内容の充実に工夫がなされている。



【施設の状況】

(校舎)

- ・天体観測など市民への開放講座等が実施するなど、積極的な学校開放がなされるとともに、避難場所に指定され、地域に周知されるなど、地域との連携が図られているが、開放が見込まれる部分に別の出入り口がなく、地域開放等を行う場合に利用者の動線、安全面が課題となる。
- ・吹き抜けや教室廊下側の全面ガラスなど、採光に工夫がなされ、明るい校舎となっている。
- ・コンクリート打ち放しの壁を活かし、に研究成果を掲示している。
- ・特別教室エリアに設けられた教職員ステーションの活用について、教員用スペース等の充実など有効活用方策の検討が望まれる。
- ・館内はwifi整備はないが、職員室は、中・高の連携を深めるため、高校と附属中学校の全て教員が入っているため、ペーパーレス等を行いながらスペースの確保が必要である。また、職員室、研究室、実験室等教員の居場所が複数あることから、教員間の連携の取り方に工夫が求められる。
- ・リバービュースペース等のオープンスペースにあるテーブルの他、枠で区切られ、個々のスペースを確保した自習スペースも整備している。



ガラス面が大きい明るい廊下



研究成果を掲示したコンクリート壁



個々の枠で区切られた自習室



▲校舎正面



▲中庭



▲環境生命実験室①



▲環境生命実験室②



▲研究成果を掲示した壁



▲天体観測ドーム



▲自習室



▲休憩スペース



▲ガラス張りでオープンな図書室



▲職員室



▲廊下



▲廊下のサイン



▲洋式トイレ



▲トイレのサイン



▲各室のサイン



▲階段室



▲3Dプリンター